

コミュニケーション研究科長  
心理学専攻教授  
杉本助男(すぎもと・すけお)

慶應義塾大学大学院社会学研究科  
心理学専攻博士課程・文学博士  
広島大学名誉教授



# 人間相互間、異文化間の コミュニケーションの 問題解決を目指す

コミュニケーション研究科は、本学が全国で初めて設置した研究科です。「人間相互間、異文化間のコミュニケーションのあり方」を学際的人間科学分野から考え、現実的な問題解決を目的とした教育研究を行っています。心理学専攻と異文化コミュニケーション専攻という2つの特色ある分野から構成され、特に心理学専攻は、臨床心理士第一種指定大学院に指定されているのが大きな特長です。コミュニケーション研究科の魅力について、研究科長と専攻主任、4人の院生が語り合いました。



心理学専攻  
後期課程 安田恭子さん(左)  
前期課程 渡邊由美さん(右)

ミクロコミュニケーションに  
焦点を絞った全国初の研究科

杉本研究科長 コミュニケーションにはマクロとミクロがあります。現在は国際やマクロミクロなコミュニケーション専攻を設ける大学院が増えてきましたが、本研究科では平成7年からコミュニケーションのパーソナルな部分に焦点を当てたミクロコミュニケーションの教育研究を行っています。アメリカの大学には多いのですが、日本では愛知淑徳大学が初めてで、現在もまだまだ少ないと思います。

ジョリー教授 心理学と異文化コミュニケーションという、2つの専攻からなるコミュニケーション研究科も珍しいと思います。

杉本研究科長 まず心理学専攻の紹介ですが、人間対人間のコミュニケーションのあり方を、心理学的研究方法を用いて多角的に捉えようとする研究領域です。異なる行動様式や価値観を持つ人々や社会を理解し、それぞれのレベルで生じる問題を解決していく能力に関する教育研究を行っています。

ジョリー教授 異文化コミュニケーション専攻では、実践的な異文化コミュニケーション能力を育成する方法と、グローバル化するビジネス活動のあり方の教育研究を行っています。現在はグローバル化が発展して多様な言語や価値観が混在していますが、共生のための相互理解と問題解決ができる異文化コミュニケーション能力を備え



た人材が求められているという時代の要請に応えたいと思っています。

3つの領域が同程度に  
充実している心理学専攻

杉本研究科長 心理学専攻の特徴ですが、3つの領域から構成されています。最近の大学院の心理学専攻は臨床心理学が主体になる傾向がありますが、本学では生体情報心理学、社会心理学、臨床心理学が同じ程度に充実しています。

また、臨床心理学領域では、臨床心理士の受験資格を得ることができません。この第一種指定校に認定されている大学院は、愛知県内でまだ3大学程度です。臨床心理士の合格人数は年々増え、昨年は15人が受けて

## コミュニケーション研究科(博士課程 前期・後期)

### 心理学専攻

#### 生体情報心理学

生体が感覚刺激として受容する外部情報や、それらによって派生する内部情報の処理過程を生理心理学的、認知心理学的観点から究明していきます。

#### 社会心理学

個人の所属する集団の大きさから、小集団、組織、コミュニティ、大衆社会に分け、それぞれ対人行動論、コミュニティ心理学、普及過程学からアプローチします。

#### 臨床心理学

人のさまざまな状況における不適応行動を、コミュニケーションの障害という観点から精神病理学や臨床心理学の立場から考察し、その予防、対処法を究明します。



異文化コミュニケーション専攻  
前期課程 小早川真由美さん(左)  
後期課程 姜奎錫さん(右)

### 異文化コミュニケーション専攻

#### 言語コミュニケーションコース

高度な異文化コミュニケーション能力を育成する外国語教育(英語・中国語・日本語)の研究を行っています。言葉についての幅広く深い学識と、実践的コミュニケーション能力を兼ね備えた人材育成のための充実したカリキュラムが特徴です。

#### ビジネスコミュニケーションコース

日本の会計制度の国際化のあり方、日本の金融システム再生の方向性や国際的な投資活動について教育・研究を行っています。幅広いビジネス分野の諸問題に関する教育・研究の場を提供することを目指しています。

### 異文化コミュニケーション 専攻主任・教授 ジョリー・幸子(じょりー・ゆきこ)

テキサス大学大学院  
応用言語学博士課程・  
Ph.D.(応用言語学博士)



12人が合格しました。合格率は全国で60〜70%程度ですから、かなりレベルが高いと思います。

**渡邊** 私は将来カウンセラーの仕事に就きたいと思っていますが心理学専攻では臨床心理士の受験資格が得られるということで選びました。臨床心理学を理論と実践の両面から勉強できるというのも、この大学院の大きな魅力です。

**杉本研究科長** 心理学専攻には心理臨床相談室が附置されて、実際に院生が相談業務に参加できるのも特徴です。臨床心理学領域は定員12名ですが、10倍もの受験者がいる人気領域です。

**安田** 私は生体情報心理学ですが、高価な機器が充実しているのが魅力です。杉本先生がおっしゃるように、他大学ではどうしても臨床に偏りが

ちだと聞きますが、愛知淑徳大学大学院では心理学の幅広い領域をカバーする人材、設備が整っていることを実感します。

**杉本研究科長** 安田さんはよく勉強してまして、5月に日本生理心理学会という学会があったとき、シンポジウムのシンポジストに選ばれました。これほど若い人が選ばれるのは珍しいですね。

**ジョリー教授** 優秀なんですね。**杉本研究科長** 本学の心理学専攻のレベルは高いと思います。その学会では本学の7人の院生が研究発表を行いました。今や本研究科は全国区になっています。

#### 言語とビジネスの2コース

#### 異文化コミュニケーション専攻

**ジョリー教授** 異文化コミュニケーションは日本では初めての専攻で、この分野で修士課程と博士課程を一緒にした博士課程前期後期が揃っているのは、全国で本学だけだと言われています。これを誇りに思っています。

異文化コミュニケーションは、言語コミュニケーションコースとビジネスコミュニケーションコースの2つのコースに分かれています。言語コミュニケーションコースの学術的な切り口には3つあり、1つ目は音韻論や統語論、意味論などの言語学的側面、2つ目は第2言語修得に力を入れる応用言語学的側面、3つ目は、言語をコミュニケーションの手段として使う場合、回りの社会環境

とどう関連していくかということに焦点を当てる社会言語学の側面です。**小早川** 私は愛知淑徳大学英文学部の言語文化コースで英語教育に関する研究をしていましたが、英語教師になる前にもっとアカデミックに研究を深めたいと思っていました。

コミュニケーション研究科にはジョリー先生を始め、大学のときに教えていただいた、続けて教えていただきたいと思っていた先生がいらしたため、異文化コミュニケーション専攻を選びました。

**ジョリー教授** またく別の分野から入ってくると初めはまっくかもしませんが、小早川さんのように英文学から応用言語学の英語教育に進んだ場合などは、またく支障はないと思います。

**姜** 私は言語と文化という2つの勉強ができるのがメリットだと思いい、異文化コミュニケーション専攻を選びました。異文化という領域は、幅が広すぎて曖昧なところもありますが、逆に私にとっては多くのことが学べる絶好の機会だと思いました。

**小早川** 私も言語コミュニケーションだけでなく、ビジネスコミュニケーションの講義も履修し、知識の幅が大学のときより深められ広がったと思います。

**杉本研究科長** コミュニケーション研究科は、両専攻とも広い研究分野をカバーしているので、院生の視野が広がると思います。

座談会シリーズ7  
21世紀・大学の明日  
大学院を語る3

コミュニケーション研究科

社会人は約半数、増加の傾向に

心理学専攻

来年度からカリキュラムがさらに充実

異文化コミュニケーション専攻



心理学専攻博士前期課程2年  
渡邊由美(わたなべ・ゆみ)さん

**研究テーマ**「幼児の自己コントロール機能(自分を抑える力、自分を主張する力)と母親のパーソナリティとの関連」  
**将来の夢・希望** 修論のため、保育園で子供の観察をさせてもらっていますが、就学前は子どもの変化を見ることが出来る重要な時期だと感じています。この時期の問題を保育士やお母さんと一緒に考えていくカウンセラーはまだいないので、いつかそういう存在になりたいと思います。



心理学専攻博士後期課程1年  
安田恭子(やすだ・やすこ)さん

**研究テーマ**「『音の使用によるストレスマネジメントの提案』楽器音の覚醒・鎮静効果 主観的評価と脳波等による分析」  
**将来の夢・希望** 一生研究を続けられたら幸せです。様々な角度からストレスマネジメントの方法を提案し、多くの人にストレスが低減したと感じてもらえることが夢です。

視野が広がる、現場で経験を積める 大学院のメリット

**杉本 研究科長** 皆さんが大学院に進んでよかったと思うことは何ですか。  
**安田** 学会などに参加できるようになったことです。私は研究者を目指しているので、実際の研究者がどういう研究を行っているのか、生の姿を見られることは大きいと思います。学術的な視野も広がりました。

**渡邊** スーパーバイザーという先生方に途中経過を報告しながら、相談室で実際のケースを担当することが出来るようになったことです。理論だけではなく実際に現場で経験を積んでいけるというのは大きいですね。相談室ではOGやOBの方もケースを持っていることもあり、先輩方に話を聞けるというのも勉強になります。先輩方はスクールカウンセラーになる方が多いのですが、今のうちから将来を考えるきっかけにもなります。

**小早川** 大学院の授業は少人数制で

ゼミのような雰囲気です。学部とは違って積極的に自分で調べて自分で発信する機会が多くなりました。

**姜** 私は日韓の敬語の比較研究が研究テーマですが、日本語を勉強するうちに日韓の敬語体系が似ていることに気付いて、関心を持つようになりました。国際化の時代、異文化コミュニケーション専攻は、この研究を行うのによりふさわしい領域だと思います。

20代から60代、社会人や留学生など、幅広い院生が学ぶ

**杉本 研究科長** コミュニケーション研究科は、職業や年齢、国籍を問わず、開かれた大学院として広く門戸を開いています。

現在、心理学専攻では約半数が社会人で20代から60代の方が学んでいます。大学の教員や高校の教員として勤めながら、大学院へ通ってくる方も約10名います。最近では、学校で教えながら自らも勉強したい、論文を

書くために大学院に入りたいという方が増えている傾向にあります。渡邊さんも社会人入試ですね。

**渡邊** 最初、経済学部を出たあと就職しましたが、もともと心理学や社会学に興味があり、アメリカのオレゴン大学に留学しました。そこで一年半心理学を勉強して学士号を取りましたが、大学では臨床の勉強ができませんでした。帰国後、日本でカウンセラーとして働きたいと思い、心理学専攻に社会人入試で入りました。

さまざまな世代の学生が勉強しているため、価値観も多様で、心理学を勉強する上ではコトクな場所だと思っています。

**ジョリー 教授** 異文化コミュニケーション専攻でも、大学の教員が3名学んでいます。公務員の方で、仕事を終えたあと夜間開講のコースに來ている方もいます。異文化では約4分の1が社会人学生です。留学生は7名で、後期課程は姜さん一人ですね。

**姜** 韓国の大学を卒業してしばらく



異文化コミュニケーション専攻主任  
ジョリー・幸子教授(左)  
コミュニケーション研究科長  
心理学専攻 杉本助男教授(右)

異文化コミュニケーション専攻  
博士後期課程2年  
姜奎錫(かん・ぎゅそく)さん

**研究テーマ**「日・韓国における敬語の比較研究」  
**将来の夢・希望** 韓国の大学で日本語の教師を目指しています。大学院で学んだことを土台に、学生に伝えることの大切さを教えていきたいと思ひます。本国の学生に少しでも日本文化のすばらしさを伝えることができれば幸いです。



異文化コミュニケーション専攻  
博士前期課程2年  
小早川真由美  
(こばやかわ・まゆみ)さん

**研究テーマ**「高等学校『英語』教科書の課題におけるライティング活動の比較分析」  
**将来の夢・希望** 高等学校の英語教師になることです。



仕事をしてから、本学に入りました。異文化コミュニケーション専攻には韓国のほか、アメリカ、中国、台湾などいろいろな国の出身者がいて、そういう研究の仲間と知識が共有できることだと思ひます。私は大学院に入る前までは、画一的なものの見方しかできなかつたのですが、さまざまな国籍の人を知ること、物事を客観的に見られるようになったと思ひます。

**小早川** さまざまな年代、経験を積まれている方がいるので、いろいろな話が聞けて刺激になっていると思ひます。

**ジョリー教授** 本学の異文化コミュニケーション専攻の特徴の一つは、英語を使用言語として進める授業もあることです。姜さんと小早川さんはそのコースを経てきていますので、英語はできます。

**小早川** 異文化専攻の院生は学部

の方のTOEICのクラスに参加することもできますし、英語力は必ず伸びると思ひます。ただ私はこの春、「米国内NOインスタンシッピングプログラム」でアメリカのハイスクールへ英語の先生のアシスタントとして行ってきたのですが、自分の英語力はまだまだだと痛感しました。

**インスタンシッピング**自体は充実していましたが、アメリカと日本の英語の授業の方法の違いが発見できたので、その経験をもちに修士論文を書きたいと思ひています。

**多彩な教授陣が専任で指導に当たる**

**杉本研究科長** 教員スタッフについては、心理学専攻では3領域それぞれを充実させようと、1つの領域に専任の教員が3〜4人います。つまり、生心理学、認知心理学、社会心理学、コミュニケーション心理学、発達心理学、臨床心理学、精神医学のそれぞれの分野の第一線で活躍している教授陣が揃っています。年代も30代から70代までと偏りがないのも特徴です。

**ジョリー教授** 異文化コミュニケーション専攻の教員スタッフの特徴は、国内外の大学院の学位を持った多彩な教授陣が集まっていることです。アメリカ人、中国人、フランス人のネイティブの先生を含む合計16人の教員が専任で指導に当たっています。

**杉本研究科長** 進路に関しては、心

理学専攻の修士課程では、スクールカウンセラーや大学の学生相談室など臨床関係が多いですね。研究者を目指す人は、安田さんのように後期課程に進み、大学などで非常勤講師をしながら研究を続けることもありま

**ジョリー教授** 異文化コミュニケーション専攻でも、やはり教育機関などに進む人が多いですね。

**杉本研究科長** 本研究科の心理学専攻では高校の公民、異文化コミュニケーション専攻では中高の英語の専修免許を取得できます。留学生の場合、帰国後は研究者や教育者になる場合が多いようです。

**姜** 私も韓国に帰ったら研究者を目指したいと思ひています。愛知淑徳大学大学院で学んだことを無駄にしないように、教える大切さを伝えていきたいと思ひています。

**ジョリー教授** 異文化コミュニケーション専攻では、平成16年度からさらにカリキュラムの領域を広くします。博士課程の前期では、日本語表現や数学的な面からの統計、経営情報論、国際ビジネス政策など7科目を新規開設します。後期も非言語コミュニケーション、中国語など6科目を新設し幅広い教育研究が可能になると思ひます。

**杉本研究科長** このような研究領域に興味のある人は是非、コミュニケーション研究科に進んでもらいたいと思ひます。